

女子高校野球の聖地 丹波の熱い夏 開幕！

第30回記念全国高等学校女子硬式野球選手権大会



30回目の夏を迎える

夏の全国高等学校女子硬式野球選手権大会（以下「選手権大会」）は今年で30回目を迎えます。

丹波市で女子高校野球が開催されるようになったのは、スポーツピアいちじま（現在のつかさグループいちじま球場）の竣工を記念して平成12年に開催された、第1回全国高等学校女子硬式野球選手権大会（以下「選抜大会」）がきっかけです。

その後、選抜大会は関東での開催になりましたが、夏の選手権大会は、平成16年の第8回大会から今大会まで丹波市が継続して開催地となり、「**女子高校野球の聖地**」と呼ばれています。

出場チームは 過去最多の70チーム

平成9年に東京都で第1回選手権大会が開催されたときは、出場チームはわずか5チームでした。その後も出場チームが増えない時期が続きましたが、近年の女子野球人気の高まりも後押しし、大幅に出場校が増え、今大会は過去最多の70チームが出場します。

出場チームが増えたことにより、令和5年から淡路市との分割開催を行っており、今年も2市で熱戦が繰り広げられます。

阪神甲子園球場での 決勝戦開催

多くの女子野球選手や大会関係者の悲願であった、「甲子園での開催」がついに令和3年の決勝戦の舞台で実現しました。

そのことで女子高校野球は大きな注目を浴び、一躍有名になりました。

今夏も日本一を目指した熱い戦いが、丹波市で連日開催されます。ぜひ球場に足を運び、選手たちの全力プレーを目に焼き付けてください。

丹波市は女子野球タウンに 認定されています！

女子野球タウンとは、女子野球をプロモーションとして活用し、地域活性化を目指す自治体のことを言い、丹波市は、令和4年に女子野球タウンに認定されています。今後も全日本女子野球連盟と連携し、女子野球の普及と地域活性化に努めていきます。



丹波市
女子野球タウンロゴ



丹波市で行われた野球教室



女子野球タウン認定式

概要 第30回記念全国高等学校女子硬式野球選手権大会

- 期 間：7月18日（土）～8月1日（土）
※丹波会場は7月26日（日）まで、予備日：7月27日（月）
- 会 場：【丹波】つかさグループいちじま球場、春日スタジアム
【淡路】ReFill スタジアム、淡路佐野運動公園第2野球場
- 開 会 式：7月18日（土）8時30分 つかさグループいちじま球場
- 問合せ先：文化・スポーツ課（春日住民センター内）☎ 88 - 5057

丹波会場では選手たちの熱い戦いを全試合無料で観戦できます！
ぜひ、来場ください！

温かい声援も
よろしくお願いします！



ID 13152



トーナメント表
ダウンロード



全日本女子野球連盟
ホームページ





女子高校野球

～ 30 年の歴史を振り返る～



丹波市で選抜大会を初めて開催した当時から支えてきた、元全国高等学校女子硬式野球連盟の堀秀政さんと、坂谷高義さんのインタビューを通じ、これまでの女子高校野球の歴史を振り返りました。



ひでまさ
堀秀政さん（元全国高等学校女子硬式
野球連盟事務局長）

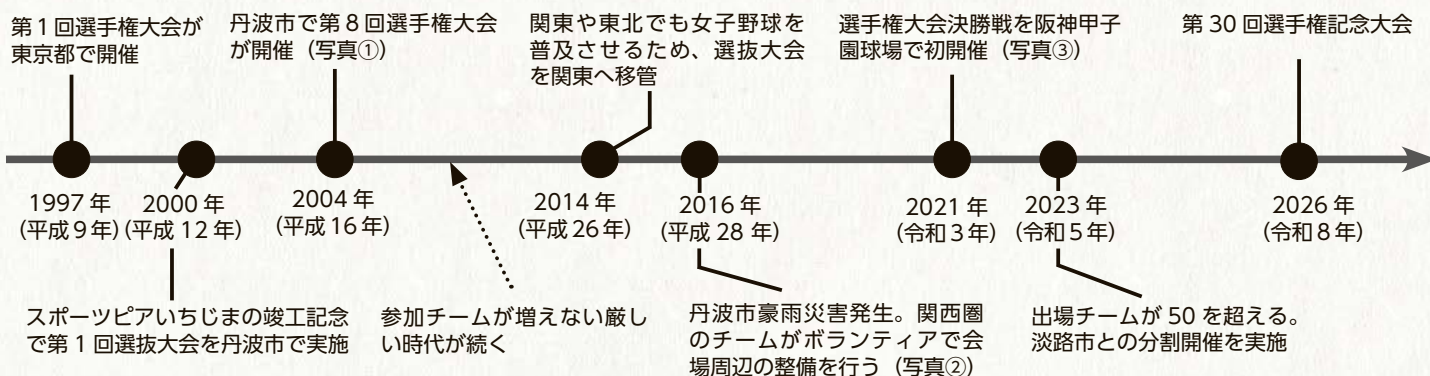
甲子園での開催が実現し、知名度は一気に上がった。さらに女子野球が盛り上がっていくことで、今以上に女子たちが、「野球をやりたい」と気軽に言える時代になってほしい。また、もっと多くの人が現地に観戦に来て、女子高校野球の魅力に触れてほしい。

今後に期待すること

グラウンドでは選手たちがきびきびと行動し、「元氣よくあいさつをしつづけるので、見ていると気持ちがいい。プレーのレベルも昔と比べると各段にあがっており、男子と比べても遜色ないプレーをしているので試合中とても見応えがある。

女子高校野球の魅力

丹波市で開催するまでの道のり
新聞で女子高校野球の存在を知り、第2回選手権大会から東京まで行き、運営をサポートしていた。その後、第1回の選抜大会を市島町で開催できることとなり、その後も町をあげて開催を後押ししてきた歴史がある。



はじめて丹波市で開催された第8回選手権大会で優勝した神村学園（鹿児島県）の選手たち。参加校は10校だった。（写真①）



丹波市豪雨災害で会場のスポーツピアいちじまのグラウンドに積み上げられた土砂や流木。丹波市での開催が危ぶまれたが、春日スタジアムで開催を行った。（写真②）



甲子園では初めての決勝戦。優勝が決まりマウンドに駆け寄る神戸弘陵高校の選手たち（写真③）

多くの人の支えがあり、豪雨災害など困難な時期も乗り越えて続けられてきた女子高校野球だが、当初からの関係者の高齢化も進んでいるので、選手たちのプレーを観て女子高校野球を好きになった人達がサポートする側に回ってくれたらうれしい。30回という節目を迎えたが、伝統のある選手権大会が今後も40回・50回と長く続いてほしい。

今後に期待すること

出場チームが増えるにつれ一気に関心する選手たちのレベルが上がったと感じている。スタンドからの応援もすごい熱量を感じる。観戦に来たことがない人はぜひ一度球場の雰囲気を感じてほしい。

女子高校野球の魅力

なんと言っても、はじめて甲子園での決勝戦が実現したこと。メディアの注目度も大きくなり、参加チームも増えた。大会に臨む選手たちにとっても明確な目標ができたと思う。

印象に残っていること



たかよし
坂谷高義さん（元全国高等学校女子硬式
野球連盟会長）